

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 病害虫防除情報第6号

施設野菜の病害虫対策についてとりまとめましたのでお知らせします。  
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

### 春の病害虫対策として、2月から管理・防除を徹底しましょう。

- 1 作物名 施設果菜、花き類全般
- 2 病害虫名 施設で発生する病害全般（灰色かび病、黒枯病、斑点病等）
- 3 発生状況（要因、予測）

- 1) 1月の巡回調査における施設果菜類の病害の発生状況は、トマトとイチゴの灰色かび病及びピーマンの斑点病でやや多く、その他についてはほぼ平年並みであるが、過去のデータから2月あるいは3月以降に多発する傾向が認められている。
- 2) 現在の作付においては、重油高騰対策により多層被覆栽培が多く、ハウス内湿度が高まりやすい環境にある。
- 3) 今後1か月の気象予報では、日照時間は少ない又は平年並み、降水量は平年並みまたは多いと予想されており、日中の気温も上がりにくく、施設の湿度管理（換気）が十分に実施できない恐れがある。

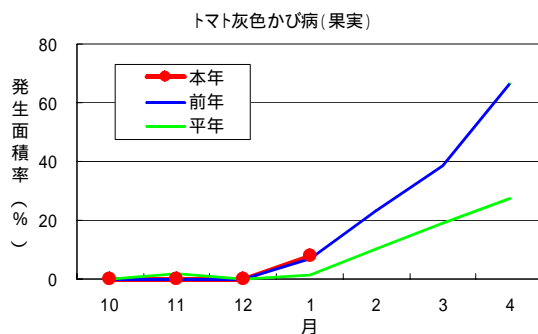


図1 トマト灰色かび病の発生推移

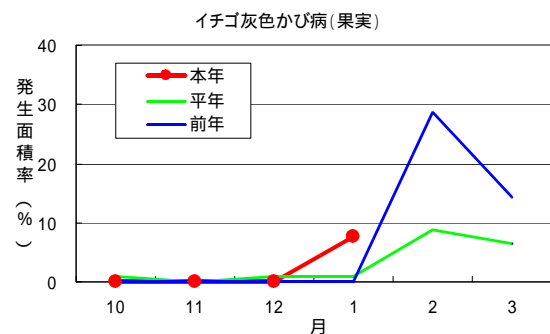


図2 イチゴ灰色かび病の発生推移

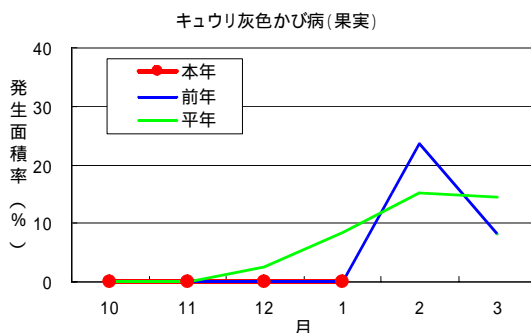


図3 キュウリ灰色かび病の発生推移

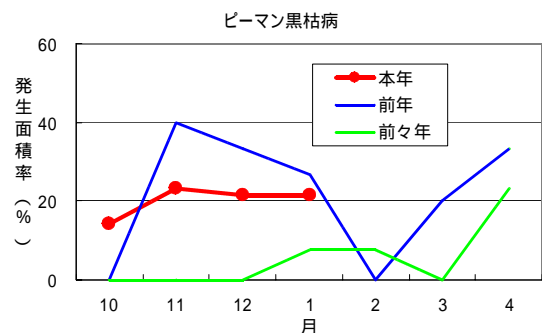


図4 ピーマン黒枯病の発生推移

## 4 防除上の注意

### 1) 温湿度管理

多層被覆下では暖房機の稼働時間が少なくなり、施設内の空気が停滞する時間帯が長くなるため、循環扇を活用したり、暖房機の機能を積極的に利用するなどして施設内環境の好適化を図る必要がある。

同様に、通常の栽培管理においても、夜間に暖房機が稼働しない日は、病気の発生に好適な時間が長く続くので、週間天気予報などにより最低気温に注意し、暖房機の設定温度を上げたり、強制送風するなど長時間の高湿度対策を行う。

曇雨天日の日中は内張被覆を広く開放し、また、寒い日でもできるだけ換気を行い、施設内湿度の低下を図る。

施設内の湿度が必要以上に上がらないよう、谷下等の水が溜まりやすい箇所の排水対策を徹底する。

### 2) 徹底防除及び予防防除

既に発生が見られる施設では、今の段階から徹底防除を行い、菌密度の低下を図る。

未発生の施設においても、予防効果のある化学農薬や、ボトキラーやインプレッションなどの微生物農薬による予防防除を実施する。

罹病葉やその他の感染部位は、新たな感染源となるため、こまめに取り除いて施設外に持ち出し、適切に処分する。

栽培環境改善と薬剤防除の効率化のため、茎葉の過繁茂を避け、適度な摘葉を行い、通気をよくするとともに、散布薬剤の進達度を向上させる。

多発生後の防除は困難となるので、早期発見、早期防除に努め、薬剤散布については、薬剤抵抗性を発達させないために同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。

### 3) その他

害虫についても同様に、2月からの徹底した対策が被害回避につながる。

詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）等関係機関に照会するとともに、防除に当たっては農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》病害虫防除・肥料検査センター 米良 TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499 ホームページ : <a href="http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki">http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki</a> E-mail : <a href="mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp">byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp</a>
--